

子どもたちの笑顔あふれる世界の実現に向けて

アジア太平洋こども会議 イン福岡

アジア太平洋こども会議・イン福岡とは

アジア太平洋こども会議・イン福岡（以下「こども会議」という。）は、平成元年の第1回開催以来、子どもたちの笑顔あふれる世界の実現に向けて、さまざまな異文化交流活動を展開しています。

【主な活動】

- アジア太平洋諸国の子どもたちを「こども大使」と称し福岡に招く招聘事業
- 福岡の子どもたちの海外派遣事業
- 日本のこども大使育成事業「ウィングキッズ・プログラム」
- 元こども大使（ピース大使）たちを中心に、世界各国で社会奉仕や国際交流などの活動を展開するブリッジ事業

今回で25回目を迎えるこども会議。今年はアジア太平洋地域の40を超える国・地域から、212人の11歳の子どもたちを「こども大使」として招き、福岡県内各所でホームステイや学校登校、交流キャンプなどが行われました。

田川市でこども大使が異文化体験

7月16日から23日までの間、田川市にもスリランカから「こども大使」がやってきました。こども大使の名前は、サチット・ウィクラマシンハくん。

17日には、鎮西小5年の児童約60人との文化交流授業が行われました。サチットくんは、故郷・スリランカを「真珠のようにきれいな国です」と紹介し、食文化や好きなスポーツなどについて話しました。一方、同小からは日本の文化として「七夕飾り」を紹介し、一緒に短冊に願い事を書いたり、折り紙で飾りを作ったりして交流を深めました。

また、この他にもホームステイ先で流しそうめんなどの日本料理を味わい、けん玉など昔ながらのおもちゃで遊ぶなど日本の文化を体験しました。

折り方を教わりながら「鶴」を折りました



手先が器用なサチットくん。上手にけん玉遊びをすることができました



ホストファミリーと食べたそうめん、とてもおいしかったです

今回ホームステイを受け入れた近藤由香さんは「準備など大変で不安もありましたが、ホームステイを受け入れることで、スリランカという国をととても身近に感じるようになりました」と話しました。また、日本の文化を体験したサチットくんは「いろいろな体験を通して日本という国がどんなところなのか少し分かった気がします。素晴らしい時間を過ごすことができ、とても楽しかったです」と笑顔で話しました。

このような異文化交流体験を通して、お互いの国を知り、お互いの文化の違いを受け入れることが、思いやりの気持ちを育み、国際理解・相互理解を深めるきっかけとなることでしょう。

